

2年 巻末「かたかなあつめ」

教材名 広がることば（かたかなあつめ）

単元目標

- 身のまわりから片仮名で書く言葉や音を集め、表記に気をつけながら片仮名カードに書くことができる。
- 片仮名で表記する言葉についての理解を深めるとともに、正しく使おうとする態度を育てることができる。

単元について

2年生もこの時期になると、生活科の学習で町に出かけることが多くなる。町で子供たちはさまざまな発見をしてくる。商店街でいろいろな店の名前を目にした子供から「どうして片仮名で書く名前とそうでないのがあるの?」という素朴な疑問が出された。そこで、生活科と国語の学習を関連させて、町にある片仮名で書く言葉を集めながら、片仮名表記や片仮名で書く言葉についての理解を深める学習の場を設けた。その際、巻末の「広がることば」を活用して、町探検での言葉集めを音の表記へと広げ、片仮名表記への理解を深めることができると考えた。

学習指導計画

時	ねらい	主な学習活動	学習支援上の留意点
1	片仮名で表記する言葉について興味をもつこと。	○生活科の町探検の活動を振り返り、片仮名の名前を探し、これからの学習の見通しをもつ。	○生活科の町探検のノートや地図などを用意させ、片仮名の言葉集めの資料とする。 ○巻末付録をもとに、音集めへの意欲も高めながら、学習のめあてをとらえさせる。
2	身のまわりの片仮名で書くものの名前や言葉を集めること。	○町探検をしたり新聞や広告などから、片仮名で書く言葉を集め、付箋紙に書く。	○生活科の学習と連動させ、町探検の時間を有効に使って、言葉集めができるようにする。
3	片仮名で書く言葉を分類、整理すること。	○付箋紙をひとまとまりの名前を考えながら整理して発表する。	○付箋紙の分類、整理はグループごとに、画用紙の上でカード絵作りを行うようにし、共同学習が楽しく意欲的にできるようにする。
4			
5	片仮名を字体や表記に気をつけて書くこと。	○分類、整理した言葉を、字体や表記に気をつけて視写する。	○拗音や促音、「ツ」と「シ」の表記などに気をつけて書くことができるようにする。

本時の展開

・目 標

集めた片仮名で書くものの名前や言葉を並べながら、ひとまとまりの名前があることに気づき、範疇に合った分類、整理をすることができる。

・資 料

言葉集めの資料として、新聞や広告を活用したい。ワークシートを用意して、切り抜いた片仮名の言葉をはって行くのである。生活科の町探検では、商店の看板や店先の商品の名前だけでなく、巻末付録の絵を見ながら町の言葉集めをなげかけ、活動を広げたい。

言葉集めには付箋紙を活用するとよい。言葉を書いてノートにはっておき、あとで、何回もはりなおしながら分類、整理することが自由にできる。

展開例

ね ら い	主 な 学 習 活 動	学 習 支 援 上 の 留 意 点
○学習のめあてをとらえる。	1. 演示を見ながら、学習のめあてをとらえる。	○ものの名前の範疇がわかるように、子供の片仮名カード（付箋紙）を黒板に掲示した画用紙にはりながら、本時の学習への動機づけを図るとともに、めあてがとらえられるようにする。
○片仮名で表記する言葉の分類を考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">集めた片仮名カードで「合体ロボ」を作ろう。</div> 2. 片仮名カードをひとまとまりの名前を考えながら整理する。 ・店の名前 ・食べ物の名前 ・食べられない品物の名前 ・外国の名前 ・町で見つけた音	○グループで付箋紙を見合いながら、どんなひとまとまりの名前があるか考えさせ、色違いの付箋紙に書くようにする。
○片仮名で表記する言葉の上位概念を考える。	3. 片仮名カードを並べながら、カード絵作りをする。 ・合体ロボット ・花 ・うさぎ	○一人一人がノート上で、範疇ごとに整理できるようにする。
○学習をまとめる。	4. グループごとにカード絵を発表する。	○必要に応じて、字形に気をつけて書き直すよう声をかける。
		○頭は、胴体は というように、ひとまとまりの言葉を意識して作ることができるようにする。
		○カード絵を黒板に掲示して、見合えるようにする。
		○ひとまとまりの言葉を取り上げ学習のまとめをする。

学習指導の実際から

授業の冒頭、集めた片仮名の言葉を発表してもらった。教師は用意した短冊カードに書いていき、黒板に掲示していく。全員のカードが並び、たくさんの言葉が集まったことを驚きとともに実感した子供たちである。次に、「どんな言葉があるのか仲間分けしてみよう」となげかけ、合体ロボを掲示した。興味をもって見入る子供たち。「頭がくだもの名前だ。」「足は花の名前だよ。」と体の部分がひとまとまりの言葉でできていることに気付いていった。そして、「集めた片仮名カードで『合体ロボ』を作ろう」と板書して、本時のねらいを確かめた。短冊カードで、頭の部分を作る。子供の発言をもとにくだものカードを集める。「やらせて！」と前に出てくる子ども達。やり方がわかったところで、グループごとに作ることを知らせた。「やった！」と歓声があがり、グループごとの活動が始められた。

画用紙の台紙に、付箋紙を並べていく子供たち。まず、ロボットの体の部分をなんの言葉にするか話し合う。なかなか決まらないので、どんな仲間の言葉が集められたのか調べてみることをなげかけた。カードを出して並べる。同じ言葉を重ねたり、同じ仲間の言葉を分担して集めるなど工夫しながら作業を進めていく。教師はそれらの工夫を紹介して、学びを広げていった。「くだもの」「でんきやさんにあるもの」「たべもの」「がいこくのなまえ」など子供たちが、ひとまとまりの名前の言葉、範疇語を決めていった。そして、いよいよロボット作りに取り組み始めた。体の胴体の部分に付箋紙を並べながら、「たべもの」が「のみもの」と「おかし」など、さらに分けられることに気づくグループもでてきた。合体ロボットの他にも、花やうさぎなどを作るグループが、それぞれ部分を意識して取り組めるよう助言していった。

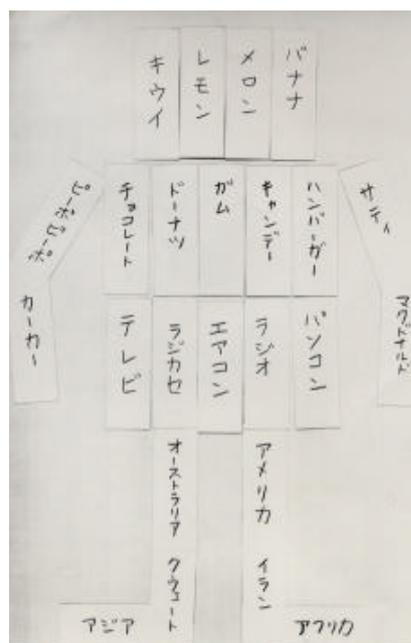
発表時には、指示棒を持たせて、子供たちが自分の担当部分を説明するようにさせた。教師は、発表されるひとまとまりの言葉を短冊カードに書いて並べていきながら、片仮名で書く言葉について整理していった。

授業を振り返って

子供たちは、教師が用意した絵カードを見することで、ロボットの部分ごとに付箋紙をひとまとまりの名前、範疇語に分類することが具体的に理解することができた。

どのグループでも、楽しく意欲的に取り組む姿が見られたが、子供たちの付箋紙の記述を見ると字形が整わないものがあった。「ツ」と「シ」、「ソ」と「ン」など個別に指導していった。また、片仮名の字形だけでなく、拗音や促音を含んだ表記についても子供どうしで見合う姿が見られた。

発表時に整理した範疇語から、外国の名前など片仮名表記のきまりにも気づくことができ、学習をまとめることができた。



【子どもの作品例】